

森林吸収量の算定方法等に関する検討会（第3回）概要

日時：令和6年10月31日（火）13:30-16:00

場所：日本森林技術協会 日林協会館5F 中会議室（オンライン併用）

議論（1） 森林吸収量算定方法の見直しに向けた課題の整理

- ・野帳の記載・入力ミスについて、過去の調整結果（前後調査期の結果）を基に成長状況を修正するという方法についても検討すべき。
- ・サンプル点数が大きければ個別データの入力ミス等の影響は小さくなる。サンプル点数によってその差分の正確性、信頼性は全く異なることから、なるべく多くの測点結果を有効活用できるように拾い上げる方法を考えるべき。
- ・全国ベースで見れば個別の入力ミスの影響は少ないかもしれないが、人工林・天然林に分けたうえ、気候帯別に分けていく、さらに2σで棄却していくと、どんどんデータセットの数が少なくなる。その意味で、個別データの精度向上にも取り組む必要がある。
- ・次年度以降、データの取扱いについて更に検討を進めるべき。

議論（2） 森林吸収量算定方法の見直しを踏まえた森林吸収量

- ・（NFIは5年で一巡する調査のため）代表年をいつにするかを検討してほしい。ほとんどの国は調査の最終年としているが、状況を見て設定する必要がある。
- ・IPCC会議で各国と議論している中で、「CO₂の濃度が増えているのでモデルで計算すると森林等の成長量がかなり大きく計算される」「CO₂施肥効果の影響がものすごく大きく出る」といった話があった。もし、そうであれば今後NFIのデータを取るほど蓄積増加のラインが高くなっていくのではないか。

議論（3） 中間とりまとめ（案）

「中間とりまとめ（案）」について議論を行い、各委員からのコメントを踏まえて「中間とりまとめ」（公表版）に反映

（以上）